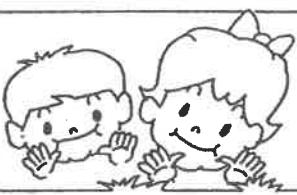




けんき

30

号
12月4日



12月を迎えて、ホールの絵をクリスマスと冬の雰囲気に変わりました。
こどたちの心をすでに発表会とクリスマス一色です。

朝の自由あそびの時間でさそり時折り太太鼓・小太鼓そしてシルバーの大音が3階にまで聞こえて来ます。年長児は、スタッフを見つけると自分の長いセリフを演技と一緒に聞いてもらっているようすがあちこちで。



■発表会の主たる練習の場はホールへと
変わり、連日こどたちの熱気で溢れます。

劇のヒリヒリは勿論、歌と器楽とハモニカと
ボリュームを上げなくてはなりません。

劇で着る衣装は、今年50人を超えるママ達が
作ってくれたのと、これ迄の在庫と
家からのものを使います。

ご家庭のご協力ありがとうございます

総練習では、その衣装を着て、マイクをして行います。

こどたち、ワクワクドキドキの一日前になります。

総練習の日は、その学年だけの登園で、他の学年はお休みです。つまみやをお休みです。

預かりはあります。(コロナ対策です)



■こどたちの通園カバンの位置を確認
してください。カバンが腰のあたりが最適
です。冬の着ぶくれ対策です。

冬期間は着ぶくれします。ベルトが長すぎたりするとバスの中でも教室
の中でも苦労するのは
こども本人ですよ。

白い物一覧メモ 2

開園当初、園舎は今の園庭があり、土地

」はありませんでした。昭和47年から
平成13年3月までこの木造の園舎での園生活でした。

平成12年度の夏休み、新築の為に園舎を解体しまし

た。その前に園児全員で、壁・床・トイレなどにみんな
で落書きをしました。(していけない事が堂々と

できたので、当時のこどたち大おどびでした。

(心育ちシリーズ) そこに愛はあるのか?

昭和の初期、熊本県のある小学校。少年の鉛筆はいつも削られていました。徳永先生がその事を尋ねると「ナイフを買って父に言つたが、勉強できなゆくには必要ない」との事。

ある日クラスのひとりが買ったばかりのナイフが無いと徳永先生に言つた。は!と思った先生は教室に誰いない時、あの少年の引き出しを覗いた。奥の方新規のナイフがあった。先生はあわてて自転車に乗って同じものを買って持ち出しおの引き出しの奥にそれを忍ばせた。

その後先生はナイフが無いと訴えた児童に「君はあわて者だからもう一度見ひなさい」と。ナイフはあった。児童は喜んだ。ナイフを盗んだ少年は潤んだ目をして先生を見つめている。

時が流れ、徳永先生のあと19歳になったあの少年から手紙が届いた。
戦地からだった。

「明日、僕は見事に戦死できると思います。その前に先生にお札を申し上げたい。
あの時先生は何と言わぬいで僕を許してくださいました。

死が直前に迫った今そのことを思い出しあ札を申し上げます。ありがとうございました。
お体大切にしてください。そしてこれから僕のような子どもをよろしくおねがいします」

教育と言うのは、このような先生たちのように深い愛がないと成り立つ仕事ではない。
子育て中は、子どもに腹立つことが多い。そんな時、「そこには愛はあるのか?」と
囁きを受け止める為に一呼吸置きたい。

目の前で起きた行動を戒めるのではなく、やってしまった相手の見えない心に
寄り添うのである。

愛という字はちゃんと「心を受け止める」という字に見えるではないか。

—日本講演新聞社説より—